

(写真：UNHCR/Kaoru Nemoto)

難民キャンプをモニターしているスタッフから上がってきた報告書に目を通して驚いたのが、象による被害。

隣国インドから国境を越えてネパールに渡ってきた象が、難民たちが作る酒のにおいに惹かれてキャンプにやってくる。何だかおとぎ話のようですが、どぶろく欲しさに押し寄せる象の標的にされた「うまい酒造り」の家は、たまったものではありません。毎年3~4件こうした被害がキャンプで起きます。家をつぶされ、さらには人が亡くなるということも。大抵夜起きるそうで、ドシン、ドシンと音を立てながら巨体が近づいてくるのを暗闇の中耳にするのは、さぞかし恐ろしいことでしょう。象は酔っ払うと鼻を振り回して家をめちやめちやにするとのことですが、夜起きるので、残念ながらまだ「酔っ払い象」を見た職員はいません。

「このセンターでどのような活動を行うか、みんなで話し合うのがとても楽しみです。僕たちにとって、センターはまさに心の支えです」。こう述べるのは、ベルダンギ・キャンプの若者代表。前回の報告で皆様にお伝えした「Youth Friendly Center」が8月21日にオープンし、開所式が若者たちの手によって執り行われました。16年にも及ぶ難民生活を強いられ、ブータンに帰還するめども立たず、かと言って、ネパールに定着することも難民の受け入れに前向きなアメリカやカナダとい



「Youth Friendly Center」オープンを記念してパチリ！

った国々への出国も未だネパール政府から許されているわけではない。こうした八方塞の状況で、特に青年たちは人生の大切な時期を無駄にしているという気持ちを強く持っています。この度キャンプごとにオープンした「Youth Friendly Center」は、HIV/エイズ予防に関する啓蒙、性暴力廃絶、人権教育などの意味のある活動をスポーツや音楽なども絡めて楽しめる形で提供します。彼らのフラストレーションを少しでも和らげることができればと期待しています。UNHCRにとっても、青年たちとの対話を拓けるいい機会ですし、われわれが若者たちの抱える問題に積極的に取り組んでいるとの姿勢を示すことは非常に重要です。

センターの運営は、NGO の指導の下、青年たちに任しているのです、このところ彼らはセンターの活動計画作りで大忙し。彼らにセンターの活動で指導力を発揮してもらうための「Leadership Training」も、この NGO によって先週からスタート。以前は日ごろの不満の鬱憤晴らしに何かとキャンプの治安を乱しがちだった若者たちが、積極的に関わっています。かつてはキャンプの「暴れん坊」だった青年たちが、今は先頭に立ってポジティブな形で若者たちを束ねてくれています。若年層による事件も今のところ鎮静化し、治安面での効果を期待しています。



青空対話集会の様子、皆さんとても熱心

対話の必要性は若者たちに限りません。難民の代表者と話した内容は必ずしもコミュニティーレベルの一般の難民たちに伝えられませんが、あるいはゆがんだ形で伝えられることもあります。キャンプはうわさの宝庫です。やはりコミュニティーの一般の難民たちと直接話をするのが大切だと思い、9月に入ってから各難民キャンプで難民との青空対話集会を実施しています。難民の代表者のみならず、興味のある一般の難民たちに自由に加わってもらえるように、キャンプの運動場にス

ピーカーを設置して、どんなことでも質問してくださいと質疑応答の時間を設けました。私も一度ネパール政府関係者とともにスピーカーとして参加しましたが、炎天下 3 時間、すっかり日焼けしてしまいました。だだっ広い空間のあちこちにたたずむ人々を前に話すのは、狭い集会場で話すのとは違い、何となくなごやかな感じが漂い、リラックスして話をすることができました。集会終了後、直接話が聞けて疑問が解けた、非常に明快な説明をありがとうと感謝されると、疲れも吹き飛びます。

しかしながら、起こるのはいいことばかりではありません。難民の子どもが病院で死亡したのをきっかけに、キャンプでの医療活動に関っている医療 NGO に対する非難が高まり、難民たちがこの NGO の事務所に押し寄せ、暴れるという事件が一昨日あったばかり。UNHCR の医療担当官も関って数時間話し合い、何とかなだめることができましたが、難民状況が長期化するに従って国際社会からの資金援助が減り、満足のいく支援活動が難しくなり、難民たちが圧迫感を募らせていることのあらわれとも言えます。

それでも、こうした厳しい状況で毎日仕事をしているスタッフたちにとって、非常に嬉しいことがありました。これまでも皆様に UNHCR が性暴力などの被害にあった難民女性たちに対してどのような支援を行っているか、また性暴力防止のためにどのような予防措

置をとっているかご報告してきましたが、ダマク事務所が難民女性の問題解決と予防にチームとして優れた功績を修めたと認められ、2005年の「UNHCR Gender Team Award」を受賞しました。UNHCR 内部の表彰で、事務所スタッフのモラル・ブーストに大いに繋がっています。

2006年9月23日

UNHCR ネパール・ダマク事務所長

根本 かおる